

Home> [今月のグラフィア](#)へ (Vol.3 Apr. Gravure)

## 今月の製作記事

[トヨタ GBエンジン起動車 ハセガワ1/72](#)  
[ハンター F\(サイバーホビー1/35\)](#)

## コラム

[梱包も また楽しく](#)

## 実機Photo特集

[特集 ニューヨーク航空博物館の1950年代 JET](#)  
[No. 2 F11F タイガー](#)  
[北京軍事博物館の T-62,T-59](#)

## 連載

[Big キット 作り直し](#)  
[\(第3回\) Bf109G-14 ハセガワ 1/32](#)  
[48JET 50選](#)  
[No. 3 F-104C スターファイター \(モノグラム 1/48\)](#)  
[米海軍現用機シリーズ](#)  
[\(第3回\) F11-1F タイガー](#)  
[モーターライズ・プラモデル](#)  
[\(第3回\) MMをリモコン戦車へ改造](#)  
[ソビエトのAFV](#)  
[\(第2回\) T-54 \(トランベッター 1/35\)](#)

## ニューキット・レビュー

[BAC LIGHTNIG F.1A \(トランベッター 1/72\)](#)

## 誌上個展

- [1 紫電改 1/48 ハセガワ](#)
- [2 モンキーカスタム 1/12 アオシマ](#)
- [3 ひやめし会 艦船作品](#)

## Information

[新発売情報](#)  
[プラモクラブ展示会情報](#)

## Reader's Club

## 広告

[全国モデラーズクラブ](#) [リンク](#)



サンプル版  
各記事の1ページ目のみ  
収録しています。

日本で初めての スケールモデラーのための プラモデルweb マガジン「webモデラーズ」は 毎月1日発行  
プラモデルの楽しみ方、スケール模型の作り方、塗装のノウハウ等を 写真付き解説記事でお伝えしています。

今月のグラフィア

実機Photo特集  
北京軍事博物館の T-62, T-59



今月の製作記事  
TOYOTA GBエンジン駆動車 ハセガワ1/72



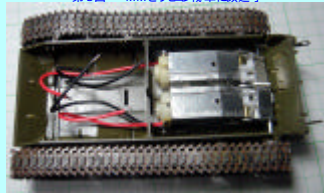
今月の製作記事  
バンターフ (サイバーホビー 1/35)



連載 ソビエトのAFV  
(第2回) ソ連戦車 T-54 (トランベッター 1/35)



連載 モーターライズ・プラモデル  
第3回 「MMをリモコン戦車に改造」



誌上個展2 モーターカスタム 1/12 アオシマ



誌上個展3 ひやめし会の艦船作品



2009年 4月 Vol.3

実機Photo特集  
特集 ニューヨーク航空博物館の1950年代JET  
No.2 F-11F タイガー



コラム  
"梱包も また楽し"



連載 米海軍現用機シリーズ  
(第3回) F-11 タイガー



連載 Big キット 作り直し  
Bf109G-14 (ハセガワ 1/32)



連載 48 JET50選  
F-104C (モノグラム 1/48)



誌上個展1 紫電改 1/48 ハセガワ



ニューキット・レビュー  
BAC LIGHTNING F.1A (トランベッター 1/72)





# トヨタGBエンジン起動車 ハセガワ1/72

By.ツカサ

全国ミニスケファンの皆さん、こんにちは。  
今回ご紹介するのはハセガワのミニボックスシリーズから、第一期シリーズの傑作(と、私が思っている)トヨタGBエンジン起動車です。

## 1.工作のポイント

飛行機のハセガワらしく、旧軍機とからめることができるアイテムとして便利である他、シリーズの中でも異色の繊細なモールドの出来栄です。どちらかというとAFVではなく飛行機のノリで開発されたキットのようにも思えます。

キットは素組でも十分繊細でよく出来ていますが、今回は起動機まわりをよりシャープにしたかったので、プラ板、プラ棒、アルミパイプ等で自作しています。



ネット等探したのですが、資料が見つからなかったため伝統と格式の「資料は箱絵のみ」でそれらしく仕上げました。起動機の他はキャビンの枠を矢羽式方向指示器とともに作り直し、グリルガードもプラ棒から作り直し、フロントフェンダーのステップなど目に付いた部分をシャープに直しています。なお、惜しいことにこのキットはタイヤの型ズレが強くて、修正したらタイヤパターンが消えてしまいましたので、ノコギリでパターンを掘り込みました。

また、幌のモールドがなかなかいい感じだったので、更に華奢っぽく削り込んで骨を浮かせてます。

## 2.塗装のポイント

Mrホビーの缶サフ#1200を軽く吹いたら塗装に入ります。今回はキャビン内を先に塗装してから細部の工作を仕上げることになりました。ちょっと特殊な形状ですので手間がかかっています。荷台のモールド繊細でいい感じなので、アクリル絵具(ターナー・アクリルガッシュ)を塗り重ねて古びた木の質感を出してみました。

まず木の地としてイエローオーカー + ホワイトを筆塗りします。  
ムラになっても気にしませんが、あまり厚塗りするとモールドが消えてしまうので注意です。



次にニュートラルグレー 5で塗装の剥げて残った部分の退色した感じを表現。  
かすれ気味に塗るのがコツですね。



# パンターF製作記 (サイバーホビー 1/35)

by Zaku

## パンターF型とは

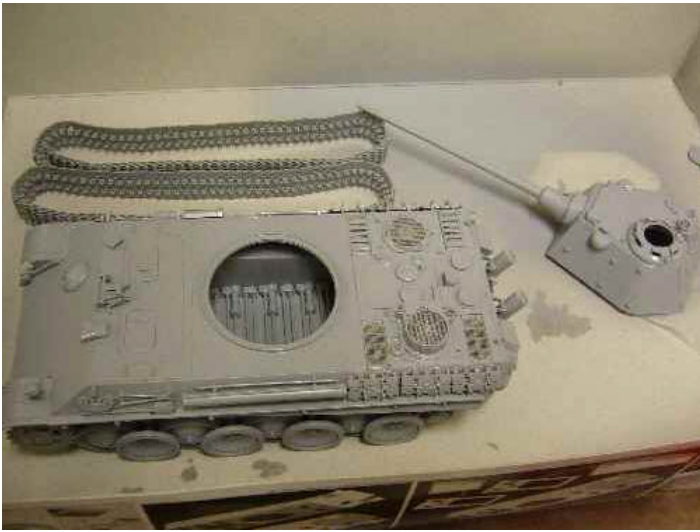
1943年末に、従来のパンターの性能不足を教訓に開発計画された車両です。主な目的は装甲の強化と生産性の向上でしたが…。砲塔部分は小型砲塔(シュマルトウルム)が採用され重量の軽減とともに防御力が高められました。その他当時としては斬新なステレオ式測距器など取り入れていたようでしたが試作型が出来上がる寸前に終戦となり実際は戦場に投入されたかは謎のままです。

## サイバーホビー パンターF型について

ドラゴン社のパンターG型(スマートキット)をベースにF型砲塔、車体上部を新たに開発し、G型車体上部を使用したプロトタイプと量産タイプが選べる2in1キットです。エッチング、マジックトラックなどポリウム一杯のキットとなっております。

## 1 組み立て

問題なく組み立てましたが、見えないところに部品接着多し。車体の中にも無数のシャフトが…。意味わかりません。車体は量産タイプを選択。必然的にプロトタイプの車体が余る。モッタイナイ。



## 2 塗装

基本のサフェーサーを塗った後エッジ部分と影になる部分にマルーン色を吹き影を作りました。





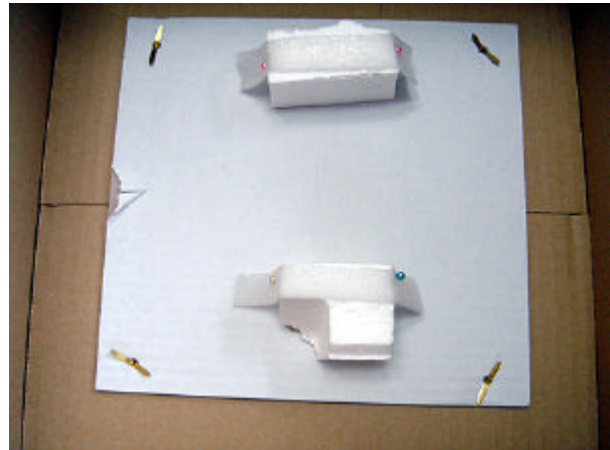
## コラム '梱包も また楽しく'

by 田口 博通 Hiromichi Taguchi

零戦 21型 タミヤ1/32 の梱包



F-84F モノグラム1/48 の梱包ベース



今月は 梱包を楽しんでみよう という話である。  
あわせて、静岡合同展示会 直前対策として、プラモデルを壊さないように輸送したり、保管したりする梱包箱の簡単な作成方法をご紹介します。

せっかくの 作品が届くまでに、破損してしまうと、これまでの努力と時間が全く無駄になるので、破損させないように輸送できる梱包は非常に重要だ。

とは わかっていても、梱包は一回だけのことが多いから、できるだけ、時間も手間もお金もかけたくないもの。面倒くさがりが先に立って 後回しになり、ともすれば 苦痛になってしまう。残り時間も少ない状況のなかで、つけやきば的に行うことになり 現地についてみると 壊れた箇所が出て、後でしまった！ と思った経験を持つ方も少なからず おられると思う。

私が所属するクラブでも 各人各様で 一番いいと思う方法があり、木でしっかり作られた梱包箱などを見ると、プラモ本体よりも 時間とお金がかかったんじゃないかと、その熱意に感心することがあるものだ。展示会の後、大事なプラモがしっかり梱包されていく姿を見ていると それはそれで楽しそうに うらやましく思えたりもする。

梱包を苦痛ととらえるのではなく、どうも楽しむ方法もあるようだ。

今回はできるだけ、時間と手間をかけない方法で 梱包を楽しんでみよう との趣旨。なので、例の一つとして 私の方法をご紹介します。

### 飛行機モデルの梱包

例として 1/72 F2Aバッファロー(アオシマ)の 梱包をしてみよう



# 実機資料写真集 F11-1F タイガー

ニューヨーク航空博物館のF11-1F タイガーを紹介します。(撮影時期は2005年春)

展示されているのは VF-33の F11-1F (AF-210 Bu.141783) ロングノーズです。  
タイガーという名前に似合わず 非常にコンパクトな戦闘機です。

(写真1) 50年代~60年代の米海軍標準塗装であるが、塗り替えられており かなり光沢がある。





## T-62,T-59

T-62は、ソ連でT-54/55を改良して開発された戦車である。北京軍事博物館の1階には T-62と T-59 が並んで展示されている。  
T-59中戦車とは T-54の中国ライセンス版。

塗装はグリーンがかったオリーブドラブ。

床は大理石。まるで、ピアノが並んで展示されているようで 不思議な空間である。(撮影時期は 2003年)

T-62は軽戦車と表記されていて、車高が低く T-59に比べると一回り コンパクトな戦車であることがわかる。

左 T-62軽戦車と 右 T-59中戦車 (T-54の中国ライセンス版)  
同形状に見えるが、二台並ぶと 明らかに T-62の方が 小さいのがよくわかる。



T-62 軽戦車



## Big キット作り倒し (第3回) Bf09G-14 ハセガワ 1/32

押入れを占領するBigキットを作り倒し パーンとスペースを空けようというBigな連載コーナー。

1/32と限らず、巨大な箱なら なんでも取り出します。デビモンサンにもスポールされた可哀想なBigキットが再び、皆様のお役に立ちます。

第3回目は ハセガワ 1/32の Bf109G-14 G-6のバリエーションですが、2002年に発売された当時は、大きな話題になったので、どこのご家庭の押入れにも、必ず 一箱はモスポールされているはず。

実機がコンパクトなので、完成しても 嵩張りません。ストレートに作っても なかなかの仕上がりになるので、お奨めであります。

### 実機について

G-10の就役が 大幅に遅れたため、1944年5月につなぎとして生産が開始されたのが、DB-605AMに中高度以下で使用するMW 50パワーブーストを追加装備して、出力向上を図った Bf109G-14です。

96オクタンの C3燃料を使うため、胴体のパワーブースト用燃料口に C3指定マークが入っています。実質的には G-6/U3を量産型とした機体で、5000機近くが生産されました。

尾部には G-6と同じ金属製尾部と、垂直尾翼が大型化された木製尾部の 両者があります。

キャノピーは G-10用にEria社が開発した "エルラ・ハウベ"とよばれる 枠が少なく 後端まで 一体で開くものが 装備されたものもあります。しかし、連合軍の空爆によるラインの混乱で、仕様は一定していないとされています。

### キットの印象

第1回で取り上げた Fw-190D9同様、1/32を簡単に組めるコンセプトで 設計されたキットだけあって、パーツ点数が少なく 部品の合いは抜群。表面はリベットもなく凹パネルラインだけの あっさりキットですが、修正点がなく、48よりも 楽に組める といった印象のキットです。

作例は 木製大型尾翼、エルラハウベキャノピー装備機として、リベットを 全面に追加しています。

別売りデカールが 各社から たくさん発売されていて、作例のデカールは イーグルカルのものを使用しています。

筆者は G-6とあわせ、3機目の完成で、ずらっとならべて派手に楽しんでおり 更にG-6が2機、製作進行中でありました。

それでは、製作に入ってゆきましょう。





## 連載 48JET傑作機 50選 (第3回) F104C スターファイター (モノグラム 1/48)

by 田口 博通 Hiromichi Taguchi

第3回目のお題は アメリカの ロッキードF104C スターファイターです。モノグラムから凸パネルラインではあるが、かなりいい感じのC型のキットが発売されています。ハセガワの48キットもいい出来ですが、そちらは自衛隊F104J用に取って置くことにして、今回は在庫消化を兼ねてモノグラムを選んでみました。

モノグラムの48は発売はずいぶん前ですが、スタイルのとらえ方がうまくて、ストレートに組んでも、出来上がると写真のように、実感たっぷり、古いとはいえ、十分満足いく作品ができます。

### 実機について

ロッキードF104は 最も有名な超音速戦闘機の一つです。長い、細い胴体と 短くて小さい主翼が特徴的で、最後の有人戦闘機」といわれた時期もありました。J79エンジンを搭載し、マッハ2級以上の速度を誇ったが、格闘性能は今一つとも言われています。小型、軽量はいいのだが、あまりにコンパクトで、全天候攻撃用電子装備を搭載できず、航続距離も短かったようです。

部品点数は72点でそう多くなく組み易いし、脚まわりが秀逸でさすがモノグラムと思わせる片鱗があります。

また、胴体後部がはずれて、エンジンのアフターバーナーパイプを見られるようになっていて、エアブレイキも開閉選択式です。ガトリングガンのアクセスパネルも取り外せるようになっていて、キャノピー後部も開閉選択式で、電子装置が見られるようになっていて、サービスたっぷりです。当然とはいえ、翼端燃料タンクとサイドワインダーが選択式。また、空中給油パイプの部品が付属しています。

アメリカ空軍では、F104Cは TAC(戦術航空軍団) 第479TACに配備されています。

南ベトナムには 1965年に展開し、ベトコン陣地攻撃や非武装地帯を爆撃するB-52の上空援護に使われたが、対空砲火により3機が撃墜されています。航続力が無いため、北ベトナムまでは進出できず、MIGと戦う機会は遂にありませんでした。



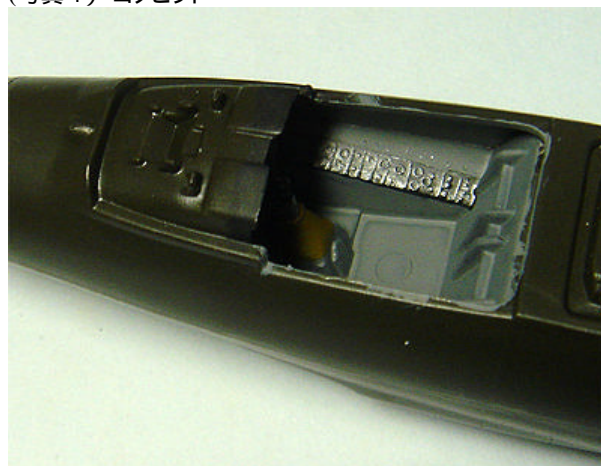
### 製作の注意

キットは おなじみオリーブドラブ色のモノグラム特有のプラで成型されています。パネルラインは凸ラインだが、細いので、彫りなおさず、そのままとして、主翼のリベットを追加して打ち込んだのみだが、全然気になりません。

コクピットは毎度のバスタブで、計器パネルと操縦桿をつけると終わりです。シートも簡素だが、シートベルトのモールトもあり、塗装するだけでも、結構いい感じになります。内部はダークガルグレイで塗装し、黒、銀などで塗り分けておきます。

胴体はかなりのおもりが 必要なので注意。レドームの中だけでなく、コクピットの後ろなどに 釣り用錘を粘土でつめこんでおきました。

(写真1) コクピット



## F11-1F タイガー (ハセガワ 1/72)

by 厚木の助さん

厚木の助でございます。先月は横田の角さんに助っ人をお願いいたしました。なんでも角さんは次回はF-32にするとのたまわっております。しかし、こういうことを言っただけでございませぬ。最新鋭機というのは、ブスでございますねえ。

メンクイの助といたしましては、今月のお題には世界初の超音速艦上ジェット戦闘機 F11-1F タイガーを取り上げてみたいと存じます。

タイガーは エリアルールを適合したコンパクトな胴体に、35度の後退角をもち、それはそれはボディコンのオナーチャンの佇まいがでございます。

1/72ではハセガワからロングノーズ型が1970年代に発売されたに過ぎず、実機の人気がなぜかイマイチなので、リメイクモノにはお目にかかることができておりませぬ。

ハセガワのキットは発売当時の世相を反映し、可動部が一切無く、端正シンプルなフォルムです。薄い、凸ボリのパネルラインだけの表面は、のっぺらで、弥生土器を思わせませぬ。

同時期に発売された F9パンサーが、全面凹ボリのパネルラインだっただけに、凹ボリを期待したファンを少しがっかりさせたものでございました。



### 実機について

もう50年以上前のことゆえ、ご存知の方は少ないとは思いますが、F11タイガーはグラマンが1950年代に世界で初めてエリアルールを適用して設計し、海軍に送りだした後退翼ジェット戦闘機でありまして、クルセーダーに取って代わられる前、空母に搭載され、世界の警察官の役目を果たしておりました。

しかし、J65エンジンの推力不足に泣き、就役が1957年と遅れ、結局、計201機が生産されたにすぎませぬ。4年後の1961年には全機が、実戦VFから姿を消しました。就役期間が短く、厚木にも配備されたことがないため、地味な印象は拭えず、日本ではあまり人気が無いのは残念なことです。

厚木には VF-111 Sundowners が1960年1月、61年2月の2回、CVG-11ハンコックの West Pac ツアーに同行して訪問しており、当時のテールコードは NH でありました。また、生産数が少なかったため、海兵隊までは手がまわらず使用されておられません。

生産はプロトタイプが3機。ショートノーズ型が39機。こちらは機首に空中空油ブローブを固定装備しております。

生産の主力はロングノーズ型となっております。

レーダーベイのスペースを確保するために、コクピット前スペースを大型化したロングノーズ型が157機生産 (Bu.No.141728 ~ 141884) されました。空油ブローブは廃止され、翼付け根前縁に小さなファイレットが追加されております。

しかし、予定した大型レーダーは結局搭載しなかったため、張子の「タイガー」となっております。

機首先端の黒ネオブレン塗装部が非常に小さく、塗装が禁止されているはずの機首レドームになぜ大きな「タイガーシャーク」を書くことができたのか？これが謎の答えでありました。



## モーターライズ・プラモデル (第3回) ”ドンガラをリモコン戦車へ改造”

by タンクダンク

1/35 M47 タミヤ 改造リモコン戦車



先月は「モーターライズで砲塔旋廻をぶちかまそう」ということで、砲塔旋廻への改造をしたが、今月はいよいよ佳境に入り、「ドンガラをリモコン戦車へ」改造する。

つまり、MM (ミリタリーミニチュア) をリモコンへ改造するのである。

MMの中には、昔 シングルやリモコンなりのバージョンで発売されていたものが、ギアボックスを省かれてしまい、ドンガラとなったものがある。

内部スペースもあり、駆動輪、誘導輪などの強度もあり、リモコンに逆改造しやすい。

### M47 軽戦車

今回は手軽なものがないかと周囲を探したら、以前作ったタミヤ1/35MM M47がころがっていたので、これをリモコンに改造してみよう。M47は自衛隊の軽戦車としても使われていて、模型も非常にコンパクトである。

M47は40年ほど前に、シングルとリモコン版が発売されていて、車体下部を流用したバリエーションにM42ダスターがあった。

現在はギアボックスが省かれ、MM版として発売されている。キャタピラが昔ながらのポリ製で、塗装がのらないのが残念。



## 連載 ソ連戦車 第2回 T-54 (トランペッター 1/35)

by タンクダンク

この連載は ソビエトの戦車を 毎月1機種ずつ、案に作れるキットを選び、できるだけストレートに製作して12台コレクションしてみましょう! というコーナーです。

第1回は T-55A タミヤの傑作キットでしたが、第2回はその流れを受けて T-54です。

T-54はトランペッター製しかなく、決定版とはいえませんが、世間には これしかないということもあり、今回の登場です。

### 実車について

ソビエトには重戦車と中戦車の2つの流れがあるが、大戦後、T-34中戦車の発展形として開発したのがT-54とその改良型 T-55である。

戦闘重量は、36トンと軽量で、全長6.4m、全高2.4mとコンパクトな車体と被弾性に優れた半球形の砲塔に、55口径100mm砲を装備した。弾薬搭載量は34発で少なめ。1950年代に登場し、中国などでもライセンス生産された。T-55との識別点は砲塔のベンチレーターの有無である。

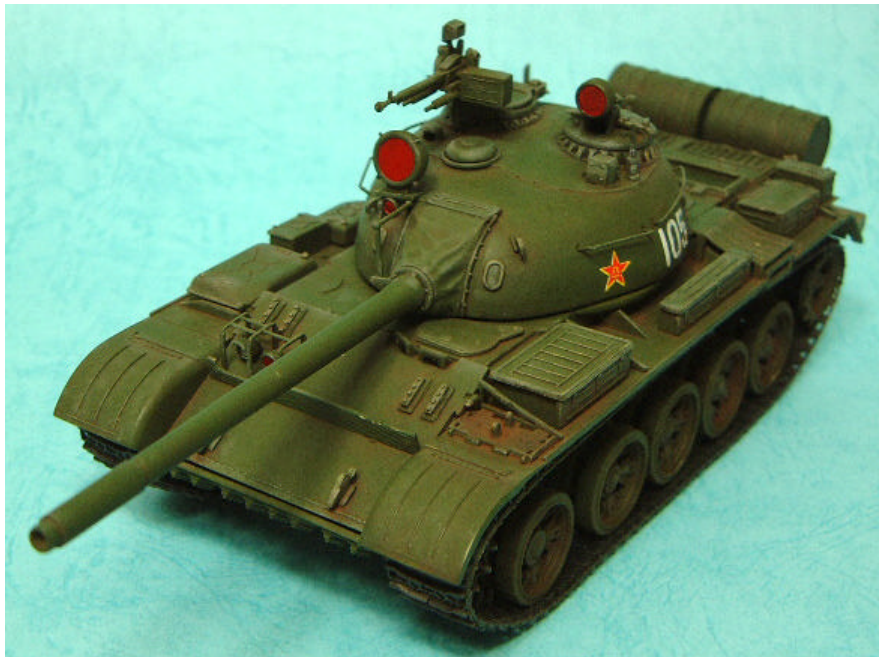
### トラペの T-54 キットは

中国広東省中山市のトランペッターの初期の製品で、モールドも甘いところも有りですが、できあがるとスタイルも決して悪くはありません。北京軍事博物館の実車を取材したようです。成型材料には 固いABSでなく、普通のスチロールが使われているので、普通に接着が可能です。

車体上エンジンカバーには、こしゃくにも樹脂ネットが付属していますし、主砲根元のカバー部品も 付いています。

砲塔は鋳物肌の実感を出そうとした努力の後の認められます。今回は砲塔の手すりを金属線で置き換えただけで、後はキットの部品だけを使ってあります。キャタピラはポリ樹脂製で、熱したドライバーでとめるタイプです。

全部の部品を接着しただけで、下の写真のように T-54にしかみえないスタイルが出現します。これって楽しいことだと思いませんか？





## ニューキットレビュー BAC LIGHTNING F.1A (トランペッター 1/72)

by 田口 博通 Hiromichi Taguchi

ニューキットレビューのコーナーは WEB マガジンの即時性を生かし、市販品の購入後、どの雑誌よりもっとも早い新製品レビューの実現を目指しています。

さて、今月のレビューは トランペッターから3月初頭に発売された1/72 BAC ライトニングF.1A/F.2

F.1Aは派手な塗装から 人気がある割には 1/72では、40年前に発売されたAIRFIX製しか無かったので、大きな穴が埋まりました。ただお値段が 3990円と1/72では飛びぬけてお高い。果たして その出来は？



### 実機について

BAC ライトニングは イングリッシュ・エレクトリック社(後のBAC社)が設計したイギリス初の超音速戦闘機です。1954年に原型P.1Aが初飛行し、3回目の飛行でマッハ 1を超えました。

極めて特徴的なデザインで、矢羽型の60度の後退翼、鯉のぼりのように あんぐりと大きく開いた機首のエアインテーク、縦置きにした双発エンジン。まるでSF、サンダーバードか謎の円盤UFOを想像させます。

このエンジンと機首から伸びるエアダクトが 機体容積のほとんどを占めるため、燃料を積むスペースがほとんど無く、防空戦闘機として運用を開始した後も、航続距離の短さに泣くことになりました。

ちなみに 第1エンジンは主翼の下、第2エンジンは主翼の後ろ上に 互い違いに装備されていますので、縦長楕円の胴体形状になっています。

F.1Aは F.1の改良型で、アビオニクスの更新により、胴体下側に長い配線カバーが張り出しています。

下腹の着脱式燃料タンクは小型のままですが、左翼下面に空中給油用の受油プローブを装備着脱できるように改造されています。1960年に初飛行し、28機が生産されました。武装は 機首に30mmアデン砲2門、空対空ミサイルとして ファイアストリーク もしくは レッドトップ AAMを2発装備できます。

F.1Aで 最も有名なのが 本誌作例の「ファイアーバード」です。第56スコードロン内に 公式デモンストレーション チームとして編成されています。各翼前縁を炎のような派手なREDに塗り、各地の航空ショーで 8機の見事なダイヤモンド編隊を見せ、人気となりました。

「ファイアーバード」に使われた機体は、F.1Aのレーダーをはずして、機首にパラストを積み、給油プローブも 装備しておりません。さすが、渋チンの英国であります。

## 誌上個展

# 紫電改21型前期型 1/48 ハセガワ

by 礼千西沢 / ミトボール会長

紫電改は小生の好きな戦闘機のひとつです。今回、モデルリカステンのフィギュアより海軍の酸素マスク装着搭乗員を制作、紫電改に乗せました。ハセガワの紫電改は大変よくできていて、サクサク組み立てられます。マーキングは、日の丸はサークルカッタを使用して制作、数字はデカールをコピーしてマスキングシートを製作して塗装にて再現しました。海軍第343航空隊戦闘301飛行隊菅野飛行隊長機にしてみました。

松山での空中戦での大勝利！から終戦まで激戦で菅野飛行隊長をはじめ多くの搭乗員が戦死するなど、完成した紫電改を眺めつつ当時に思いを馳せるのであります。

紫電改ってすごい！

なんてたって強そうです。

よっ！日本ー！

いろいろ書きましたが、あなたもいかがですか？

紫電改。

作ってみては？

それでは次回またお会いする日を楽しみにしております。





## 誌上個展

### 1/12 アオシマ・モンキーカスタム

by 浅原隆明 / ミートボール会員

もともと私はバイクが好きでモンキーを作ってみようと思い作り始めました。作り方は基本的な方法で、下地にサフェイサーを塗り、ヒケ処理などを行い、今回は筆塗りで塗装しました。難しかった所はメッキ部分の接着がうまく具合にいかず苦戦した所です。

作った後に思ったのですがメッキ部分を剥がしてからシルバー塗装をすれば良かったかなと思います。でも全体的には筆塗りをしたことによって味が出て、飽きがないので良く眺めています。



## 誌上個展

# ひやめし会 艦船作品

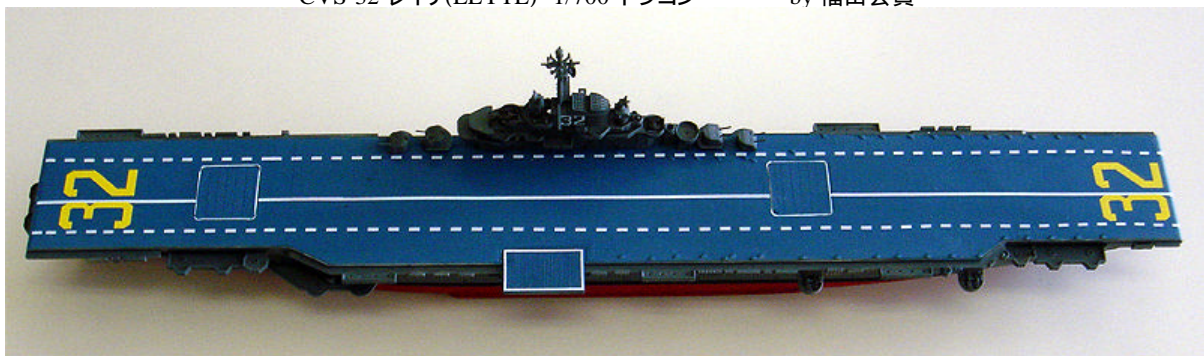
by 福田会員& 小野内会員

横浜のモデラーズクラブ「ひやめし会」の2月と3月の例会で、1/700WL 艦船モデルがいくつか出品されました。いずれも素晴らしい仕上がりで、艦船モデルの魅力を改めて実感。

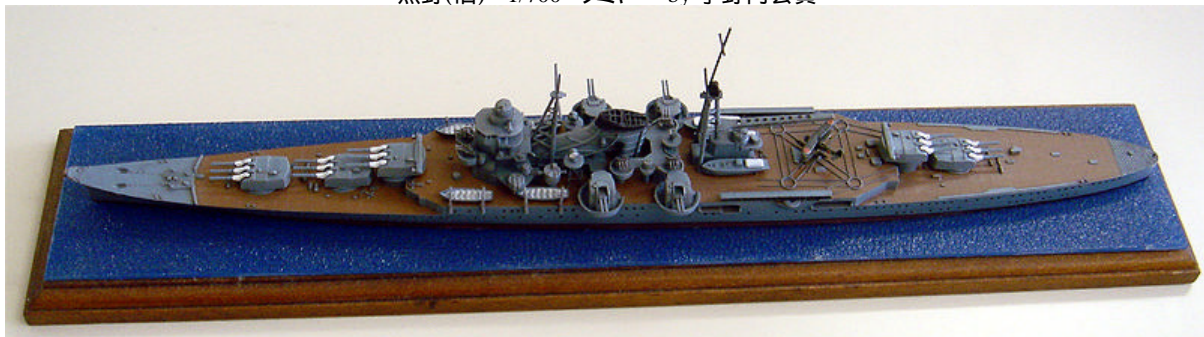
### コメント

福田です。  
私の作品は、空母です。  
CVS - 32 レイテ (LEYTE)です。  
キットは、ドラゴンの1/700 CVS - 37 プリンストン (PRINCETON)です。プリンストンのキットには、6隻分の艦番号デカールが入っています。

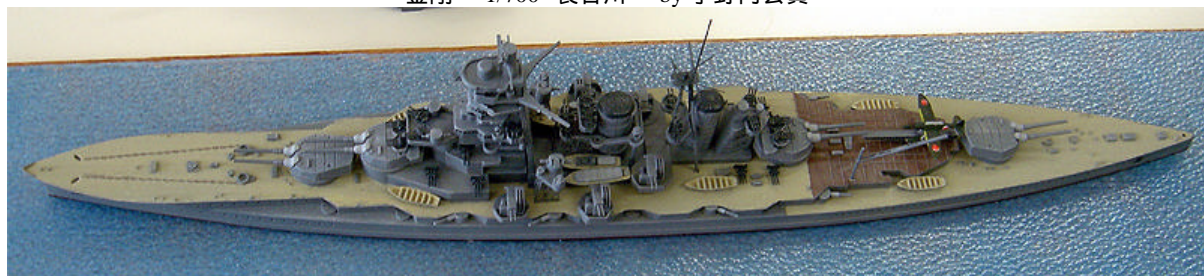
CVS-32 レイテ(LEYTE) 1/700 ドラゴン by 福田会員



熊野(旧) 1/700 タミヤ by 小野内会員



金剛 1/700 長谷川 by 小野内会員





## 月刊webマガジン 『webモデラーズ』 2009年 4月号 Vol.3 CONTENTS

	目次	INDEX	ページ
クワビア			2
2009年 4月号 コンテンツ			3
今月の製作記事			
TOYOTA GBエンジン起動車 (1/72 ハセガワ)		ツカサ	4
バンターF (1/35 サイバーホビー)		Zaku	5
コラム			
梱包も また楽しく		田口 博通	6
実機Photo特集			
ニューヨーク航空博物館の1950年代 JET No.2 F11-1F タイガー			7
北京軍事博物館の T-62,T-59			8
連載			
Big キット 作り直し (第3回) Bf109G-14 (1/32 ハセガワ)		田口 博通	9
48 JETS 0選 No.3 F-104C スターファイター (1/48 モノグラム)		田口 博通	10
米海軍現用機シリーズ No.3 F11-1F タイガー		厚木の助さ ん	11
モーターライズ・プラモデル (第3回) MMを1/72工戦車へ改造		タンクダンク	12
ソビエトのAFV (第2回) T-54 (1/35 トランベッター)		タンクダンク	13
ニューキット・レビュー			
BAC ライトニングF.1A (トランベッター 1/72)		田口 博通	14
誌上個展			
(1) 紫電改 (1/48 ハセガワ)		礼千西沢	15
(2) モキーカスタム (1/12 アオシマ)		浅原隆明	16
(3) ひやめし会 艦船作品		福田会員 小野内会員	17
Information			
新発売情報			
プラモデル展示会情報			
Reader's Club			
広告			
全国モデラーズクラブ リンク			

編集後記  
なんとか、4月号は「嘘の日」に発行ができました。まだ、多少 リンクのバグが残っているようですが、間に合ったことにしたいと思います。

4月で桜のよい季節を迎えましたが、皆様の プラモライフはいかがでしょうか？  
5月静岡を目指して、ラストスパートというところかもしれませんね。

私はニューキットレビューにすべく エアフィックス 1/48 TSR-2に挑んでいたのですが、残念ながら大きすぎて3月末には完成しませんでした。その代わりとしてはなんですが、今週には トランベッター 1/72 ライトニング F.1が 完成するかもしれないので、完成したいニューキットレビューにUPしたいと思います。

『webモデラーズ』発行人 田口 博通

(追記) 4月13日 ニューキットレビュー トランベッター 1/72 ライトニング F.1 アップしました。

模型とスケールプラモデルの 月刊webマガジン 『webモデラーズ』 2009年 4月号 Vol.3  
[ Vol.3 Apr.2009 web-modelers ]

発行日： 2009年 4月1日

発行人： 田口 博通 [ Hiromichi Taguchi ]

発行所： office 『webモデラーズ』

住所： 神奈川県湘南

連絡先： [info@webmodelers.com](mailto:info@webmodelers.com) 編集部

広告掲載に関するお問い合わせは：[ad@webmodelers.com](mailto:ad@webmodelers.com) 広告担当まで

URL：<http://www.webmodelers.com>

ご意見、ご感想、作品の写真、製作記事など [info@webmodelers.com](mailto:info@webmodelers.com) へ お送りください。お待ちしております。

プラモデルを楽しむ スケールモデラーのためのプラモデルwebマガジン『webモデラーズ』は 毎月1日発行  
プラモデルの楽しみ方、スケール模型の作り方 塗装のノウハウ等を 写真付き解説記事で掲載しています。